

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (課長補佐兼河川開発係長 渡邊弘昌)	内線	4408 (4433)
------	-------------------	---------------------	------------------------------------	----	----------------

事業種目	ダム事業	事業採択年度	H 4		現 計 画	再評価時点
事業名	但東生活貯水池建設事業	着工年度	H 10	総事業費	4 0 億円	4 0 億円
		再評価年度	H 10	内用地補償費	11.0億円	11.0億円
事業区間	出石郡但東町畑山			完成予定年度	H18	H14
所在地	一級河川円山川水系横谷川（出石郡但東町）			進 捗 率 (内用補進捗率)	41% (61%)	12% (3%)
事業の目的				事業内容		
横谷川沿川の洪水被害を防除し、河川環境の保全等に 必要な維持流量の確保及び既得取水の安定化を図 るとともに、但東町に対して新たに日量1,150m ³ の水 道用水の取水を可能にする。				型 式：重力式コンクリートダム ダ ム 高：25.7m 堤 体 積：23.6千m ³ 総貯水容量：470千m ³ 治水安全度：1 / 3 0		
進捗状況	平成4年度に事業採択後、地形測量・地質調査・環境調査・設計等を進めて おり、平成10年度から用地買収に、平成13年度から補償工事である付替道路工 事に着手した。用地買収は完了しており、今後、付替道路等の工事の進捗を図 るとともに、平成16年度にはダム本体工事に着手し、平成18年度完成を目指す。					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	・ 横谷川は昭和50年代に改修がなされているが、断面が狭小であるため抜本的 な治水対策として但東ダムが必要である。また、但東町の主な水道水源は浅 井戸であり、渇水時において取水が困難な状況が生じており、安定水源とし ての但東ダムが必要である。					
(2)有効性・効率性	・ $B/C = 1.41$ $C'/C = 1.06$ ・ 付替道路工事はダムサイトまで進捗しており、本体工事に着手できる段階に 至っている。 ・ 但東町は、既に取水可能な水源は掘り尽くされており、今は、ダム以外に水 源開発の方法は残されていない。					
(3)環境適合性	・ 切土法面の緑化には在来種を用い、また、湛水区域上流の湿地性環境をビオ ト - プとして活用するなど、学識経験者の意見を聞きながら、貴重種等の保 全対策を行うこととしている。 ・ 但東ダムには不特定利水容量を設けており、渇水時においても水生動物の生 息に必要な河川流量を確保することが出来る。					
(4)優先性	・ 平成2年9月には、横谷川下流の畑山地区で護岸が決壊する被害が生じてお り、同地区の治水安全度の向上が必要である。 ・ 但東町はダムの完成に合わせて浄水場等の整備を平成8年度から進めてお り、既にダム直下の導水管工事を除き完成している。両施設が一体となった 効果発現に向け、本事業の早期完成を図る必要がある。					
再々 評価 の 結果	事業継続	左の 理由	上記理由により、事業継続が妥当である。			